

# 北九州市立大学の3つのポリシーの作成

---

－卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針－

## 1 学士課程

### (1) 3つのポリシーの作成方針

- ・3つのポリシーの定義、基本方針、策定単位、策定体制、作成手順

### (2) 全学の3つのポリシーの作成

- ・DP・CP・APの作成方法

### (3) 学部学科等の3つのポリシーの作成

- ・DP・CP・APの作成方法
- ・カリキュラムマップ・ツリー、科目記号の作成方法

## 2 大学院課程

### (1) 北九州市立大学大学院3つのポリシーの作成方針

- ・3つのポリシーの基本方針、策定単位、策定体制、作成手順

## 3 その他

- ・DP見直しにおける考え方
- ・卒業認定・学位授与の方針と基盤力の関係

# 背景

## 1 省令改正

学校教育法施行規則の改正による3つのポリシーの策定・公表の義務化  
平成28年3月31日改正、平成29年4月1日施行

第百六十五条の二 大学は、当該大学、学部又は学科若しくは課程（大学院にあっては、当該大学院、研究科又は専攻）ごとに、その教育上の目的を踏まえて、次に掲げる方針（大学院にあっては、第三号に掲げるものに限る。）を定めるものとする。

- 一 卒業の認定に関する方針
- 二 教育課程の編成及び実施に関する方針
- 三 入学者の受入れに関する方針

2 前項第二号に掲げる方針を定めるに当たっては、同項第一号に掲げる方針との一貫性の確保に特に意を用いなければならない。

第百七十二条の二 大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

- 一 大学の教育研究上の目的及び第百六十五条の二第一項の規定により定める方針に関すること。

## 2 3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン

中教審の答申等をふまえ、多くの大学で3つのポリシーが策定されるようになっているが、

○ 内容が抽象的で形式的な記述にとどまる

○ 相互の関連性が意識されていない

ものが多いといった問題がある。

これを受け、中央教育審議会が指針として、ガイドラインを策定（平成28年3月31日）

## 3 認証評価

省令改正、ガイドラインをふまえて、

大学改革支援・学位授与機構の自己評価実施要領を改正

## 4 第3期中期計画

DP、CPの整合的見直しと教育課程の再編

中期No. 13

個別選抜の見直し

中期No. 25

## 北九州市立大学 3つのポリシーの作成方針

### 【定義】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP））	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー（CP））	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。
入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー（AP））	各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。  ※(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等の能力、(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

### 【基本方針】

1. 本学の設置理念、学則に掲げる教育目的との整合を図る。必要がある場合は教育目的を改正する。
2. 3つのポリシーの一貫性、整合性を確保する。  
学位プログラムを作成する前提として、DP・CP（カリキュラム・マップ、ツリー（履修体系図））・APの一貫性、整合性を確保する。基盤教育センターについては、DPに代わり「基盤力」を作成する。
3. DPを満たすうえで、過不足のない科目を配置する。（科目数が多くなりがちなので必要な科目を選別する。）
4. アセスメント可能なポリシーを作成する。
  - ① DPの項目は、全学、学部等・学科等（学部等には「学群」を含み、学科等には「学類」を含む。以下同じ。）で共通とする。
  - ② 3つのポリシーのアセスメント方法、エビデンスを整理したアセスメント・ポリシーは別途作成する。
5. 本学の個性・特色、学部学科等の専門性・魅力を盛り込む。
6. 社会への送り出しを重視し、DP・CPは、社会との関係を一層重視する（学士力、社会人基礎力との整合を考慮する）。
7. 学生、受験生、社会に分かりやすいものにし、大学内外に積極的に情報発信する。

【策定単位】

1. 本学の設置目的、学部等の構成、専門性、学位、特色を勘案し、全学の DP、CP、APを作成する。
2. 学位プログラムの教育目的、専門性、資格・免許、想定する進路を勘案し、授与する学位または学科等ごとに、当該学部学科等で3つのポリシー案を作成する。ただし、複数の DP に対して一つの AP を設定することは可とするが、3つのポリシーの一貫性、整合性は確保する。基盤教育センターについては、DP に代わり「基盤力」を作成する。また、CP、カリキュラムマップ・ツリー、ナンバリングについては、北方キャンパス、ひびきのキャンパスごとに作成する。

	全学	学部学科等	基盤教育センター	
			北方	ひびきの
DP	○	○	(基盤力)	
CP	○	○	○	○
マップ	×	○	○	○
ツリー(履修体系図)	×	○	○	○
AP	○	○	×	×
ナンバリング	×	○	○	○

【策定体制】

1. 全学のポリシーは、学長の下に組織する「3つのポリシー策定委員会」が作成する。ただし、AP は「入試広報センター」が「3つのポリシー策定委員会」の助言を受けて作成する。
2. 学科等のポリシーは、原則として、カリキュラム、入試、就職の責任者を含む複数人で「学科等教育課程再編部会」を設置し作成する。  
基盤教育センターは、カリキュラムの責任者を含む複数人で「基盤教育センター教育課程再編部会(北方)」、「基盤教育センター教育課程再編部会(ひびきの)」を設置し作成する。
3. 学科等のポリシーと基盤力については整合性を図る必要があるため、学部長等・学科長等から成る「教育課程調整会議」を設置し、各部会との調整役として必要に応じて個別に協議する。

#### 【作成手順】

1. 全学の3つのポリシーは、DPの作成に始まり、その後CP、APを作成し、3つのポリシー間の一貫性、整合性を勘案し、必要な修正を行ったうえで、教育研究審議会の議を経て、学長が決定する。ただし、APは「入試広報センター」が「3つのポリシー策定委員会」の助言を得ながら作成する。
2. 学部学科等の3つのポリシーは、全学のポリシーに基づき、これを修正する形で、ポリシー間の一貫性、整合性を勘案して作成する。「3つのポリシー策定委員会」の助言を得ながら、学部等教授会で審議し、教育研究審議会の議を経て、学長が決定する。ただし、APは教授会とあわせて「入試広報センター」での審議も経て作成する。

#### 【検証・改善のための体制】

1. 3つのポリシー作成後は、3つのポリシーを起点とした検証と改善を継続して行うため、全学組織及びその下に学部学科等単位で検証と改善のための組織を設ける。詳細は別途アセスメント・ポリシーのなかで作成する。

## 全学の3つのポリシーの作成

### 【DPの作成】

基本方針を踏まえるとともに、次の事項を基本に作成する。

1. 学生を主語として、具体的な力を記載する。(主語は省略する)  
例) …できる、…を身につけている
2. アセスメントの容易さ、関係者への理解促進のため、項目数を限定する。4または5項目を目安とする。具体的には、現行のDP項目を統廃合し項目数を削減する。
3. 各項目の下に、具体的な力を1～2つ箇条書きにする。
4. 具体的な力は、できる限り分かりやすく簡潔に記載する。

### 【CPの作成】

基本方針を踏まえるとともに、次の事項を基本に作成する。CPは、DPの実現に向け、個々の学生が入学から卒業までの学修過程を見通すことのできる体系的な教育課程編成や、当該教育課程における教育内容、方法、学修成果の評価の在り方等を簡潔にわかりやすく記載する(「学則 第3章 教育課程、履修方法及び単位の認定」を参考に作成する)。

### 【APの作成】

基本方針を踏まえるとともに、次の事項を基本に作成する。

1. 入学希望者に向けて、「求める学生像」及び多様な学生を評価するための「入学者選抜の基本方針」を具体的に記載する。
2. 入学者選抜の基本方針には、選抜方法及び、高大接続を踏まえ、学力の3要素(①知識・技能の習得 ②思考力・判断力・表現力等 ③態度)に添って、求める能力を簡潔に記載する。

#### 〈記載例〉

	求める能力
知識・技能	高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。 自分の考えを日本語で他者に分かりやすく文章表現できる。
思考力・判断力・ 表現力等の能力	ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。
主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ 態度	地域社会や国際社会における食料・資源・環境に関するさまざまな問題に関心を持ち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいと考えている。

## 学部学科等の3つのポリシーの作成

### 【DP（基盤教育センターは「基盤力」。以下同じ）の作成】

基本方針を踏まえるとともに、学部学科等の教育目的、全学の DP との整合を図り、次の事項を勘案して作成する。

1. 全学 DP の項目に沿って、具体的な力を 2～3 つ箇条書きにする。全学 DP を修正する形で作成する。

例) …できる、…を身につけている

### 【CP の作成】

基本方針を踏まえるとともに、学部学科等の教育目的、全学の CP との整合を図り、次の事項を勘案して作成する。

1. 全学 CP の項目に沿って、箇条書きにする。全学 CP を修正する形で作成する。
2. 「教育内容」「教育方法」「学修成果の評価」に加え、カリキュラム（学位プログラム）の順次性、整合性、DP との一貫性を保証するため、「カリキュラム・マップ」「カリキュラム・ツリー」「科目記号（ナンバリング）」を作成し、科目の新設、統合、廃止を行う。
3. DP を満たすうえで、過不足のない科目を配置する（科目が多くなりがちなので必要な科目を選別する）。

### 〈カリキュラム・マップの作成〉

カリキュラム・マップは、卒業認定・学位授与の方針（DP）の達成にどの授業科目がどの程度寄与するかを示した授業科目の一覧である。授業科目毎に身につく知識・能力等を可視化したもの。

① 科目の目的とする DP 項目の重みづけは、学生等への理解促進、アセスメントの容易さの観点から原則 3 つ以内とし、◎、○、△で表示する。◎は最も重視する項目に原則 1 つとする（必ず 1 つはつけることとする）。付随する DP 項目は考慮しない。

#### 【重みづけの配分目安】

◎ 40%以上 ○ 20～30%程度 △ 10%程度

重みづけの合計が 100% となるように配分する。

② 科目は基盤教育、専門教育の科目区分に添って配置し、科目の過不足、重みづけの適切性をチェックし、再整理する。

③ 「大学教育再生加速プログラム事業」における学修成果の可視化のため、各重みづけの配分は次表のとおりとする。

### 〈重みづけ基本パターン〉

No.	記号 (◎、○、△)			数値内訳 (単位 : %)		
	a	b	c	a	b	c
①	◎			100		
②	◎	○		70	30	
③	◎	○	○	50	25	25
④	◎	○	△	60	30	10
⑤	◎	△		90	10	
⑥	◎	△	△	80	10	10

### 〈卒業論文・研究など一部例外パターン〉

No.	記号 (◎、○、△)			数値内訳 (単位 : %)		
	a	b	c	a	b	c
⑦	◎	◎		50	50	
⑧	◎	◎	○	40	40	20
⑨	◎	◎	△	45	45	10

### 〈カリキュラム・ツリー (履修体系図) の作成〉

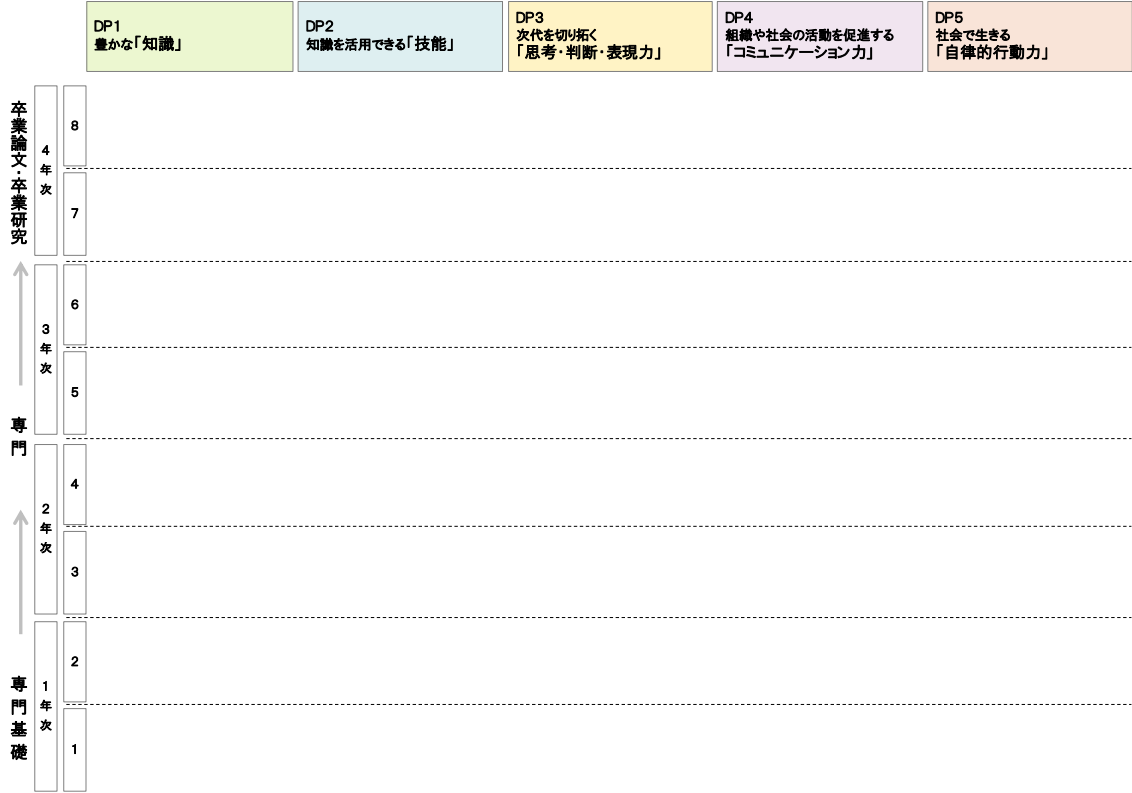
カリキュラム・ツリーは、学生に身につけさせる知識・能力等 (DP 項目) と授業科目との間の対応関係を示し、体系的かつ順次性のある履修を促す履修体系図であり、各授業科目の関係、DP 項目との対応関係を可視化したもの。

- ① 全学 DP を記入し、DP ごとに色付けを行う。(様式に記載済み)
  - ② 科目をカテゴリーに分ける。
  - ③ 科目または科目群を DP 項目の色に応じて色付けする。
  - ④ 科目または科目群を履修年次ごと、レベルごとに並べる。  
⇒基盤教育科目：入門科目群、発展科目群、総合科目群など  
⇒専門教育科目：専門基礎科目群、専門科目群、卒業論文・卒業研究など
  - ⑤ 履修の流れを矢印で表示し、DP 項目との関連性は科目群の色で表示する。
  - ⑥ カリキュラム・マップとの整合性をチェックし、双方を修正し整える。
- ※A 3 一枚 (横向き) に収めること、DP を満たすうえで、過不足のない科目を配置する。  
(科目数が多くなりがちなので必要な科目を選別する。)
- ※カリキュラム・ツリーのイメージ図については別紙参照



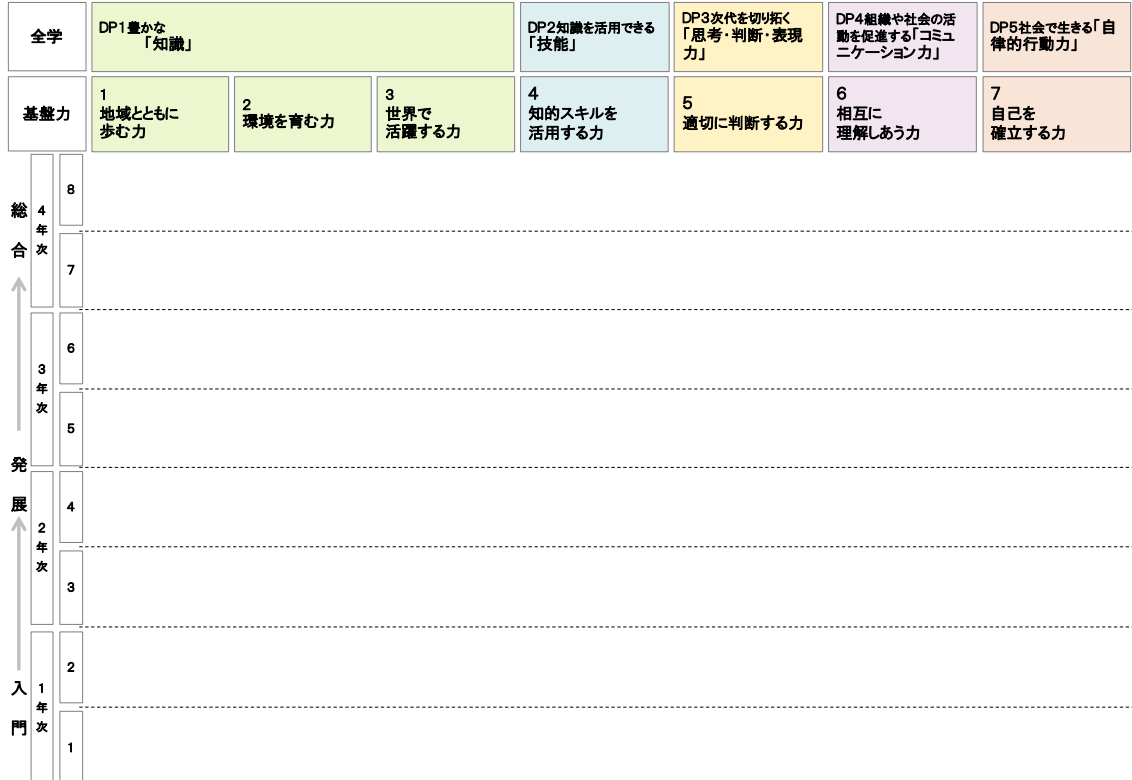
【カリキュラム・ツリーフォーマット】 ○○学部 ○○学科 専門教育科目

必修科目 選択科目 自由科目



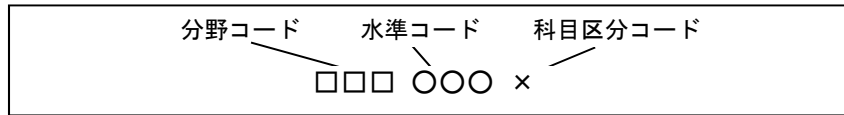
【カリキュラム・ツリーフォーマット】 基盤教育科目(北方)／(ひびきの)

必修科目 選択科目 自由科目



## 〈科目記号（ナンバリング）の作成〉

① 科目記号は、分野コード（アルファベット3文字）、水準コード（数字3桁）、科目区分コード（アルファベット1文字）で構成し、以下のように表示する。



② 学士課程のナンバリングは次のとおりとする。（詳細は別紙のとおり）

### (1) 分野コード

- 主に学問分野の分類について、[別表1]を用い、アルファベット3文字で表記する。
- 分類表は、履修ガイド等で学生に明示する。

### (2) 水準コード

- 科目の難易度について、3桁の数字で表記する。
- 難易度は次の4段階で示すこととし、その旨を学生に明示する。

100 番台	入学後の学生が理解できるレベルの科目又は基礎的レベルの科目	000 番台	入学後の学生が理解できるレベルであると同時に、学年を問わず、卒業までの学修過程の中で専門教育科目と並行して履修することを推奨する科目
200 番台	中級レベルの科目		
300 番台	上級レベルの科目		
400 番台	卒論等総仕上げ相当の科目		

- 2桁目の数字（0-9）について
  - 以下のとおりの取扱いとする。
    - ・ 内部管理用の番号とし、次の2つの区分で管理する。
      - 区分A…分野の細目を設定する。[別表2]
      - 区分B…分野の細目を設定せず、一の位と合わせた2桁の連番を設定する。
    - ・ 学生には、2桁目の数字が同じ場合、同じ細目に区分された科目を示す場合があることを明示する。
    - ・ なお、区分A、Bにかかわらず、0,8,9については、0：分野全般、8：実験・実習・実技系科目、9：その他 として管理する。
- 1桁目の数字（0-9）について
  - ・ 内部管理用の番号とし、連続する科目には可能な範囲で連続する番号を割り当てる。

(3) 科目区分コード

F※ <sup>1</sup>	基盤教育科目
M※ <sup>2</sup>	専門教育科目※ <sup>4</sup>
C※ <sup>3</sup>	修了証関連科目（教職、副専攻）

※<sup>1</sup> Fundamental Education Courses    ※<sup>2</sup> Major Education Courses    ※<sup>3</sup> Certificate Courses

※<sup>4</sup> 国際関係学科・中国学科…自由選択科目を追記。地域創生学群…専門基幹科目、専門科目に置き替え。

【AP の作成】

1. 基本方針を踏まえるとともに、学部学科等の教育目的、全学の AP との整合を図り、次の事項を勘案して作成する。
2. 基本的に、全学 AP の項目に沿って作成する。学部学科等では、学力の 3 要素と入試方法をマトリックスに、受入れ人材像を記載する。

〈記載例〉

	求める人材像	前期日程		後期日程		推薦		AO
		センター	教科	センター	面接	小論文	面接	
知識・技能	高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。	◎	○	◎		○	△	
	自分の考えを日本語で他者に分かりやすく文章表現できる。		△		○	△	△	○
思考力・判断力・表現力等の能力	ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。		△		○	△	△	○
主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	地域社会や国際社会における食料・資源・環境に関するさまざまな問題に関心を持ち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいと考えている。				○		◎	◎

\* 区分A

No.	分野コード	分野名称(日本語)	分野名称(英語)
1	ACC	会計学	Accounting
2	ANT	人類学	Anthropology
3	ARC	建築学*	Architecture
4	ARE	地域研究*	Area Studies
5	AST	特定課題研究	Area Studies Thesis
6	BIO	生物学*	Biology
7	BUS	経営学*	Business Administration
8	CAR	キャリア	Career
9	CHM	化学*	Chemistry
10	CHN	中国語*	Chinese
11	DOT	博士論文	Doctor Thesis
12	ECN	経済学*	Economics
13	EDU	教育学*	Education
14	EIC	電子情報通信工学*	Electronics, Information and Communication Engineering
15	ENG	英語*	English
16	ENV	環境学*	Environmentology
17	FRN	フランス語*	French
18	GEN	ジェンダー	Gender
19	GEO	地理学	Geography
20	GES	教養演習	General Education Seminar
21	GOL	地学	Geology
22	GRM	ドイツ語*	German
23	HIS	史学*	History
24	HSS	健康・スポーツ科学*	Health and Sports Science
25	INF	情報学*	Informatics
26	IRL	国際関係学	International Relations
27	JPS	日本研究*	Japan Studies
28	JSL	日本語別科*	Japanese as a Second Language
29	KRN	朝鮮語*	Korean
30	LAW	法学*	Law
31	LIN	言語学*	Linguistics
32	LIT	文学*	Literature
33	MAT	修士論文	Master Thesis
34	MCC	メディア・コミュニケーション・文化	Media, Communications and Culture
35	MEC	機械工学*	Mechanical Engineering
36	MTH	数学*	Mathematics
37	MUS	博物館学	Museology
38	PAD	行政学	Public Administration
39	PHR	哲学・宗教学	Philosophy and Religion Studies
40	PHY	物理学*	Physics
41	PLC	政策科学	Policy Sciences
42	PLS	政治学	Political Science
43	PSY	心理学*	Psychology
44	RDE	地域開発	Regional Development
45	RUS	ロシア語*	Russian
46	SEM	演習	Seminar
47	SET	卒業課題・論文	Senior Thesis
48	SOC	社会学	Sociology
49	SOW	社会福祉学*	Social Welfare
50	SPL	教養特講	Special Lecture
51	SPN	スペイン語*	Spanish
52	SSS	社会・安全システム科学	Social/Safety System Science
53	ZOL	動物学	Zoology

〔別表2〕

## 区分A 細目分類表

No.	分野コード	2桁目	細目	No.	分野コード	2桁目	細目
3	ARC	0	全般	15	ENG	0	全般(1学期)
		1	建築構造・材料			1	全般(2学期)
		2	建築環境・設備			2	TOEIC
		3	都市計画・建築計画			3	ビジネス関係
		4	建築史・意匠			4	科学技術関係
		5	—			5	個別技能(英米学科)
		6	—			6	個別技能(国際関係学科)
		7	—			7	個別技能(比較文化学科)
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
4	ARE	0	全般	16	ENV	0	全般
		1	アジア			1	環境動態解析
		2	アメリカ			2	環境影響評価・環境政策
		3	イギリス			3	環境技術・環境材料
		4	ヨーロッパ(イギリス除く。)			4	人文科学
		5	ロシア			5	社会科学
		6	地域間比較研究			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
6	BIO	0	全般	17	FRN	0	全般(1学期)
		1	基礎生物学			1	全般(2学期)
		2	生物科学			2	—
		3	生物機能・バイオプロセス			3	ビジネス関係
		4	—			4	—
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
7	BUS	0	全般	22	GRM	0	全般(1学期)
		1	経営学			1	全般(2学期)
		2	—			2	—
		3	商学			3	ビジネス関係
		4	—			4	—
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
9	CHM	0	全般	23	HIS	0	全般
		1	物理化学			1	日本史
		2	有機化学			2	東洋史
		3	無機化学			3	西洋史
		4	複合化学			4	考古学
		5	材料化学			5	—
		6	化学工学			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
10	CHN	0	全般(1学期)	24	HSS	0	全般
		1	全般(2学期)			1	身体教育学
		2	個別技能(中国学科)			2	スポーツ科学
		3	ビジネス関係			3	応用健康科学
		4	—			4	—
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
12	ECN	0	全般	25	INF	0	全般・情報学基礎
		1	理論経済学			1	ソフトウェア
		2	経済学説・経済思想・経済史			2	計算機システム・ネットワーク
		3	経済統計学			3	メディア情報学・データベース
		4	応用経済学			4	統計科学
		5	経済政策			5	—
		6	財政学・金融論			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
13	EDU	0	全般	27	JPS	0	全般
		1	教育学			1	日本研究A
		2	教育社会学			2	日本研究B
		3	教科教育学A(国語)			3	—
		4	教科教育学B(社会・公民・商業)			4	—
		5	教科教育学C(外国語)			5	—
		6	教科教育学D			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
14	EIC	0	全般	28	JSL	0	全般(1学期)
		1	電子デバイス・電子機器			1	全般(2学期)
		2	通信・ネットワーク工学			2	—
		3	システム工学			3	ビジネス関係
		4	計測工学			4	科学技術関係
		5	制御工学			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他

29	KRN	0	全般(1学期)	49	SOW	0	全般
		1	全般(2学期)			1	地域福祉
		2	—			2	児童・家庭・女性・障害者・高齢者福祉
		3	ビジネス関係			3	保健・医療・介護福祉
		4	—			4	社会保障・社会福祉政策
		5	—			5	福祉マネジメント・権利擁護
		6	—			6	相談援助
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
30	LAW	0	全般	51	SPN	0	全般(1学期)
		1	基礎法学			1	全般(2学期)
		2	公法学			2	—
		3	刑事法学			3	ビジネス関係
		4	社会法学			4	—
		5	国際法学			5	—
		6	民事法学			6	—
		7	商事法学			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
31	LIN	0	全般			0	全般
		1	言語学			1	言語学
		2	日本語学			2	日本語学
		3	英語学			3	英語学
		4	日本語教育			4	日本語教育
		5	外国語教育			5	外国語教育
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
32	LIT	0	全般・文学論			0	全般・文学論
		1	日本文学A			1	日本文学A
		2	日本文学B			2	日本文学B
		3	英米・英語圏文学			3	英米・英語圏文学
		4	欧州文学(英文学除く)			4	欧州文学(英文学除く)
		5	各国文学			5	各国文学
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
35	MEC	0	全般			0	全般
		1	機械材料・材料力学			1	機械材料・材料力学
		2	生産工学・加工学			2	生産工学・加工学
		3	設計工学・機械機能要素・トライボロジー			3	設計工学・機械機能要素・トライボロジー
		4	流体力学			4	流体力学
		5	熱工学			5	熱工学
		6	機械力学・制御			6	機械力学・制御
		7	知能機械学・機械システム			7	知能機械学・機械システム
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
36	MTH	0	全般			0	全般
		1	代数学			1	代数学
		2	幾何学			2	幾何学
		3	基礎解析学			3	基礎解析学
		4	大域解析学			4	大域解析学
		5	経営学系			5	経営学系
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
40	PHY	0	全般			0	全般
		1	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理			1	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
		2	物性Ⅰ			2	物性Ⅰ
		3	物性Ⅱ			3	物性Ⅱ
		4	数理物理・物性基礎			4	数理物理・物性基礎
		5	原子・分子・量子エレクトロニクス			5	原子・分子・量子エレクトロニクス
		6	生物物理・化学物理			6	生物物理・化学物理
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
43	PSY	0	全般			0	全般
		1	社会心理学			1	社会心理学
		2	教育心理学			2	教育心理学
		3	臨床心理学			3	臨床心理学
		4	実験心理学			4	実験心理学
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
45	RUS	0	全般(1学期)			0	全般(1学期)
		1	全般(2学期)			1	全般(2学期)
		2	—			2	—
		3	ビジネス関係			3	ビジネス関係
		4	—			4	—
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他

## 北九州市立大学 3つのポリシーの作成方針

### 【基本方針】

1. 大学院課程の3つのポリシー（カリキュラムマップを含む）の改正等は、学士課程に準じる。
2. 現在の3つのポリシーを必要に応じて修正する。
3. 教育課程の可視化の観点から、新たにカリキュラムツリー（コースツリー）とナンバリングを作成する。

- ・教育課程が可視化されることにより、大学院生にとって、学修過程の理解、計画的履修に役立つ
- ・教育課程の説明が容易になり、志願者への理解促進に役立つ

### 〈カリキュラムツリー（コースツリー）の作成〉

#### 【策定単位】

1. 本学の設置目的、研究科の専攻・コースなどの構成、専門性、授与する学位、特色を勘案し、各研究科毎に検討し、「3つのポリシー策定委員会」と協議のうえ策定単位を決定する（例えば、専攻単位、研究科単位、学位プログラム単位）。

#### 【策定体制】

1. 大学院課程の3つのポリシーは、4研究科の規模、教員体制、専攻と学位の関係等、教育体制が大きく異なるため、一律には扱わず、基本的に学長の下に組織する「3つのポリシー策定委員会」の助言を受けて個別に作成する。ただし、APは「入試広報センター会議」の助言を受けて作成する。
2. 大学院課程の3つのポリシーは、各専攻から適切な人材を選出するなど、策定単位ごとに3つのポリシーの整備が可能な教育課程再編部会を設置する。

#### 【作成手順】

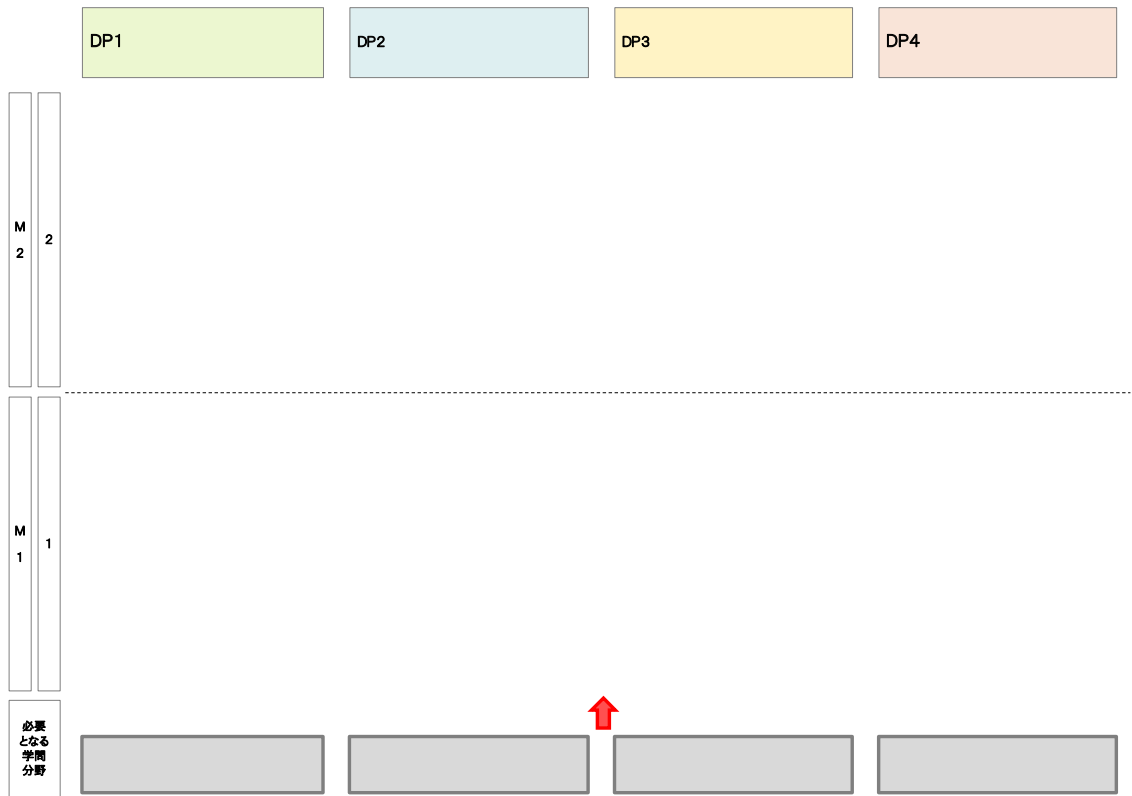
1. 3つのポリシー間の一貫性、整合性を勘案し、「3つのポリシー策定委員会」の助言を得ながら、各研究科委員会で審議し、教育研究審議会の審議を経て、学長が決定する。  
ただしAPは、研究科委員会とあわせて「入試広報センター会議」での審議も経て作成する。
2. 策定期間については、できる限り学士課程と歩調をあわせるが、特段の必要がある場合は、個別に「3つのポリシー策定委員会」と協議する。

【ポイント】

1. 3つのポリシーの一貫性の確保
2. 学年による順次性と修士（博士前期）課程と博士後期課程の接続の明確化  
(M1,M2 D1,D2,D3)
3. コースワークとリサーチワークの学修課程
4. エクステンション・プログラム等の明記（研究科の判断による）
5. 前提となる学問分野を明記
6. 必要によって英語版等も作成（研究科の判断による）

【カリキュラム・ツリーフォーマット】 ○○研究科(パターン①)

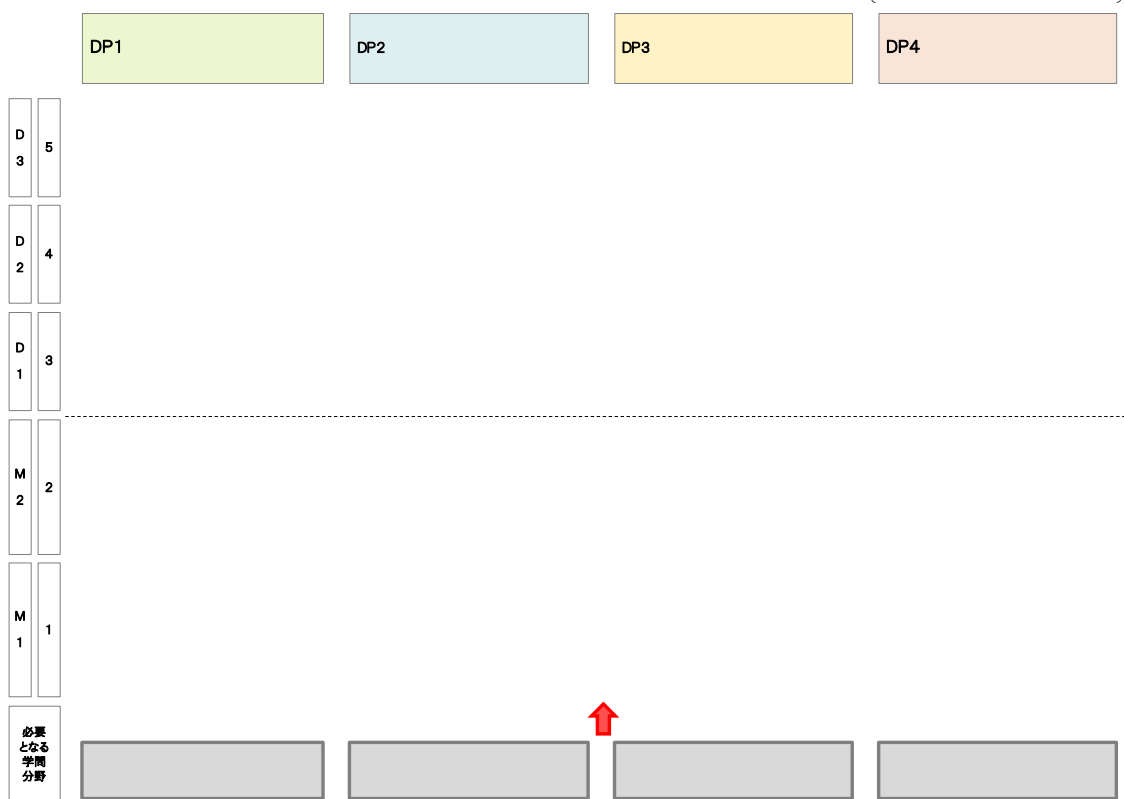
[ 必修科目 選択科目 自由科目 ]





【カリキュラム・ツリーフォーマット】 ○○研究科(パターン②)

心学科目 選択科目 自由科目

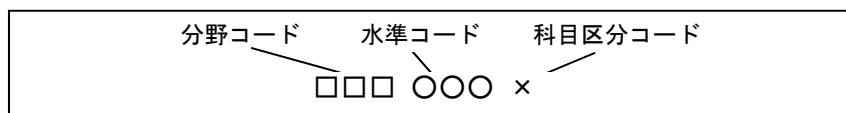


### 〈科目記号 (ナンバリング) の作成〉

本学大学院の教育課程の体系化の方策の一つとして、以下のとおり授業科目のナンバリングの導入を行うものとする。

#### 1 科目記号の構成

科目記号は、学士課程と同様に、分野コード (アルファベット3文字)、水準コード (数字3桁)、科目区分コード (アルファベット1文字) で構成し、以下のように表示する。



##### (1) 分野コード

- 主に学問分野の分類について、学士課程の [別表1] を用い、アルファベット3文字で表記する。
- 分類表は、履修ガイド等で学生に明示する。
- 複数の専攻・コースで開講している科目 (複数の専攻・コースの学生が同時に受講する科目) の分野は、原則としてホストの専攻・コースの分野とする。

(2) 水準コード

- 科目の難易度について、3桁の数字で表記する。
- 難易度は次の5段階で示すこととし、その旨を学生に明示する。

水準コード	区 分			備 考
	修士課程 博士前期課程	博士後期 課程	専門職課程	
400 番台	○		○	大学院入学前教育レベル
500 番台	○		○	
600 番台	○		○	
700 番台		○		
800 番台		○		論文指導等

- 複数の専攻・コースで開講している科目（複数の専攻・コースの学生が同時に受講する科目）の水準は、原則としてホストの専攻・コースの水準とする。

- 2桁目の数字（0-9）について

以下のとおり、学士課程と同じ取扱いとする。

- 内部管理用の番号とし、次の2つの区分で管理する。
  - 区分A…分野の細目を設定する。[別表2]
  - 区分B…分野の細目を設定せず、一の位と合わせた2桁の連番を設定する。
- 学生には、2桁目の数字が同じ場合、同じ細目に区分された科目を示す場合があることを明示する。
- なお、区分A、Bにかかわらず、0,8,9については、0：分野全般、8：実験・実習・実技系科目、9：その他 として管理する。

- 1桁目の数字（0-9）について

- 内部管理用の番号とし、連続する科目には可能な範囲で連続する番号を割り当てる。

(3) 科目区分コード

- 科目区分について、大学院共通で下記のアルファベット 1 文字で表記する。
- 履修ガイド等で次表を学生に明示する。

B <sup>*1</sup>	専攻共通科目
S <sup>*2</sup>	専門科目
R <sup>*3</sup>	特別研究科目

<sup>\*1</sup> B=Basic Courses、<sup>\*2</sup> S=Specialized Courses、<sup>\*3</sup> R=Special Research Topics

\* 区分A

No.	分野コード	分野名称(日本語)	分野名称(英語)
1	ACC	会計学	Accounting
2	ANT	人類学	Anthropology
3	ARC	建築学*	Architecture
4	ARE	地域研究*	Area Studies
5	AST	特定課題研究	Area Studies Thesis
6	BIO	生物学*	Biology
7	BUS	経営学*	Business Administration
8	CAR	キャリア	Career
9	CHM	化学*	Chemistry
10	CHN	中国語*	Chinese
11	DOT	博士論文	Doctor Thesis
12	ECN	経済学*	Economics
13	EDU	教育学*	Education
14	EIC	電子情報通信工学*	Electronics, Information and Communication Engineering
15	ENG	英語*	English
16	ENV	環境学*	Environmentology
17	FRN	フランス語*	French
18	GEN	ジェンダー	Gender
19	GEO	地理学	Geography
20	GES	教養演習	General Education Seminar
21	GOL	地学	Geology
22	GRM	ドイツ語*	German
23	HIS	史学*	History
24	HSS	健康・スポーツ科学*	Health and Sports Science
25	INF	情報学*	Informatics
26	IRL	国際関係学	International Relations
27	JPS	日本研究*	Japan Studies
28	JSL	日本語別科*	Japanese as a Second Language
29	KRN	朝鮮語*	Korean
30	LAW	法学*	Law
31	LIN	言語学*	Linguistics
32	LIT	文学*	Literature
33	MAT	修士論文	Master Thesis
34	MCC	メディア・コミュニケーション・文化	Media, Communications and Culture
35	MEC	機械工学*	Mechanical Engineering
36	MTH	数学*	Mathematics
37	MUS	博物館学	Museology
38	PAD	行政学	Public Administration
39	PHR	哲学・宗教学	Philosophy and Religion Studies
40	PHY	物理学*	Physics
41	PLC	政策科学	Policy Sciences
42	PLS	政治学	Political Science
43	PSY	心理学*	Psychology
44	RDE	地域開発	Regional Development
45	RUS	ロシア語*	Russian
46	SEM	演習	Seminar
47	SET	卒業課題・論文	Senior Thesis
48	SOC	社会学	Sociology
49	SOW	社会福祉学*	Social Welfare
50	SPL	教養特講	Special Lecture
51	SPN	スペイン語*	Spanish
52	SSS	社会・安全システム科学	Social/Safety System Science
53	ZOL	動物学	Zoology

〔別表2〕

## 区分A 細目分類表

No.	分野コード	2桁目	細目	No.	分野コード	2桁目	細目
3	ARC	0	全般	15	ENG	0	全般(1学期)
		1	建築構造・材料			1	全般(2学期)
		2	建築環境・設備			2	TOEIC
		3	都市計画・建築計画			3	ビジネス関係
		4	建築史・意匠			4	科学技術関係
		5	—			5	個別技能(英米学科)
		6	—			6	個別技能(国際関係学科)
		7	—			7	個別技能(比較文化学科)
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
4	ARE	0	全般	16	ENV	0	全般
		1	アジア			1	環境動態解析
		2	アメリカ			2	環境影響評価・環境政策
		3	イギリス			3	環境技術・環境材料
		4	ヨーロッパ(イギリス除く。)			4	人文科学
		5	ロシア			5	社会科学
		6	地域間比較研究			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
6	BIO	0	全般	17	FRN	0	全般(1学期)
		1	基礎生物学			1	全般(2学期)
		2	生物科学			2	—
		3	生物機能・バイオプロセス			3	ビジネス関係
		4	—			4	—
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
7	BUS	0	全般	22	GRM	0	全般(1学期)
		1	経営学			1	全般(2学期)
		2	—			2	—
		3	商学			3	ビジネス関係
		4	—			4	—
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
9	CHM	0	全般	23	HIS	0	全般
		1	物理化学			1	日本史
		2	有機化学			2	東洋史
		3	無機化学			3	西洋史
		4	複合化学			4	考古学
		5	材料化学			5	—
		6	化学工学			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
10	CHN	0	全般(1学期)	24	HSS	0	全般
		1	全般(2学期)			1	身体教育学
		2	個別技能(中国学科)			2	スポーツ科学
		3	ビジネス関係			3	応用健康科学
		4	—			4	—
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
12	ECN	0	全般	25	INF	0	全般・情報学基礎
		1	理論経済学			1	ソフトウェア
		2	経済学説・経済思想・経済史			2	計算機システム・ネットワーク
		3	経済統計学			3	メディア情報学・データベース
		4	応用経済学			4	統計科学
		5	経済政策			5	—
		6	財政学・金融論			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
13	EDU	0	全般	27	JPS	0	全般
		1	教育学			1	日本研究A
		2	教育社会学			2	日本研究B
		3	教科教育学A(国語)			3	—
		4	教科教育学B(社会・公民・商業)			4	—
		5	教科教育学C(外国語)			5	—
		6	教科教育学D			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
14	EIC	0	全般	28	JSL	0	全般(1学期)
		1	電子デバイス・電子機器			1	全般(2学期)
		2	通信・ネットワーク工学			2	—
		3	システム工学			3	ビジネス関係
		4	計測工学			4	科学技術関係
		5	制御工学			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他

29	KRN	0	全般(1学期)	49	SOW	0	全般
		1	全般(2学期)			1	地域福祉
		2	—			2	児童・家庭・女性・障害者・高齢者福祉
		3	ビジネス関係			3	保健・医療・介護福祉
		4	—			4	社会保障・社会福祉政策
		5	—			5	福祉マネジメント・権利擁護
		6	—			6	相談援助
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
30	LAW	0	全般	51	SPN	0	全般(1学期)
		1	基礎法学			1	全般(2学期)
		2	公法学			2	—
		3	刑事法学			3	ビジネス関係
		4	社会法学			4	—
		5	国際法学			5	—
		6	民事法学			6	—
		7	商事法学			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	実験・実習・実技系科目
		9	その他			9	その他
31	LIN	0	全般			0	全般
		1	言語学			1	—
		2	日本語学			2	—
		3	英語学			3	—
		4	日本語教育			4	—
		5	外国語教育			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	—
		9	その他			9	—
32	LIT	0	全般・文学論			0	全般
		1	日本文学A			1	—
		2	日本文学B			2	—
		3	英米・英語圏文学			3	—
		4	欧州文学(英文学除く)			4	—
		5	各国文学			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	—
		9	その他			9	—
35	MEC	0	全般			0	全般
		1	機械材料・材料力学			1	—
		2	生産工学・加工学			2	—
		3	設計工学・機械機能要素・トライボロジー			3	—
		4	流体力学			4	—
		5	熱工学			5	—
		6	機械力学・制御			6	—
		7	知能機械学・機械システム			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	—
		9	その他			9	—
36	MTH	0	全般			0	全般
		1	代数学			1	—
		2	幾何学			2	—
		3	基礎解析学			3	—
		4	大域解析学			4	—
		5	経営学系			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	—
		9	その他			9	—
40	PHY	0	全般			0	全般
		1	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理			1	—
		2	物性Ⅰ			2	—
		3	物性Ⅱ			3	—
		4	数理物理・物性基礎			4	—
		5	原子・分子・量子エレクトロニクス			5	—
		6	生物物理・化学物理			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	—
		9	その他			9	—
43	PSY	0	全般			0	全般
		1	社会心理学			1	—
		2	教育心理学			2	—
		3	臨床心理学			3	—
		4	実験心理学			4	—
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	—
		9	その他			9	—
45	RUS	0	全般(1学期)			0	全般
		1	全般(2学期)			1	—
		2	—			2	—
		3	ビジネス関係			3	—
		4	—			4	—
		5	—			5	—
		6	—			6	—
		7	—			7	—
		8	実験・実習・実技系科目			8	—
		9	その他			9	—

# DP見直しにおける考え方

観点	現 行					(3要素)	見直し案		
	北九大DP (北九大卒業生の四大能力)			各学部・学科の 実質的DP(14項目)			新・北九大DP (北九大卒業生の五大能力)	具体的な力	
知識・理解	I 自ら 立つ力	①多様な分野への「総合的知識と理解」	人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。	DP-1 総合的知識・理解	○	-	DP1 豊かな「知識」	21世紀の市民として「地域」「環境」「世界(地球)」に重点をおいた豊かな教養と自らの専門分野について体系的に理解している。	
		②専門分野における確かな「知識と理解力」	自らが専攻した学問分野に関する専門的な知識を体系的に理解している。	DP-2 専門分野の知識・理解	-	○			
技能	II 異文化と 交わる力	③的確な思考・判断、行動を可能とする「技能」	自らが専攻した学問分野に関して必要となるスキルを身につけている。  知的活動や社会生活に必要な情報テラシー、数量的スキルを身につけている。	DP-3 専門分野のスキル DP-4 情報リテラシー DP-5 数量的スキル	-	○	DP2 知識を活用できる「技能」	英語などについての日常的な語学運用能力、情報リテラシーなど知的スキルを身につけている。	
		④国際社会に対応できる「語学力」	英語(読み、書き、聞き、話す)を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。 スペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれかを用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。※北方キャンパス	DP-6 英語力 DP-7 その他言語力	○	【+】			
思考・表現・判断	III 未来を創り 実践する力	⑤社会や組織の発展に向けた「課題発見・分析・解決力」	情報を正しく分析することで問題の本質を明らかにし、論理的、複眼的な思考・判断によって問題解決のための手順を導き出すことができる。	DP-8 課題発見・分析・解決力	○	○	DP3 次代を切り拓く「思考・判断・表現力」	課題を発見し問題解決に至る論理的な思考・判断・表現力を身につけている。	
		⑥自分の考えを効果的に伝える「プレゼンテーション力」	自分の考えを、場面に応じた適切な方法で分かりやすく表現し、伝えることができる。	DP-9 プレゼンテーション力	-	○			
関心・意欲・態度	IV チームで 協働する力	⑦時代を切り拓く「実践力(チャレンジ力)」	地域社会やアジアをはじめとした国際社会へ貢献する意欲を持ち続け、何事にも自発的にチャレンジし、時代をリードする存在として成長できる。	DP-10 実践力(チャレンジ力)	-	○	DP4 組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	多様な他者と協働し組織や社会の活動を促進していくことができる。	
		⑧社会で生きる「自律的行動力」	自分自身で心身の健康の保持増進を行うとともに、将来のキャリア構築に向けて主体的に準備行動ができる。  高い公共性と倫理性を持って、社会やチームの中で自律的に行動できる。  卒業後も、自律して、学び続ける意欲を持っている。	DP-11 自己管理能力 DP-12 市民としての社会的責任・倫理観 DP-13 生涯学習力	○	-			○
		⑨チームの活動を促進する「コミュニケーション力」	コミュニケーション力を発揮し、他者と協働しながら組織や集団の目標に向かって、全体の活動を促進していくことができる。	DP-14 コミュニケーション力	○	○			

○: DP必要 【+】: 各学科等で必要に応じて上乗せ

## 卒業認定・学位授与の方針と基盤力の関係

全学DP		基盤力
DP1 豊かな 「知識」	21世紀の市民として「地域」「環境」「世界(地球)」に重点をおいた豊かな教養と自らの専門分野について体系的に理解している。	地域とともに歩む力
		環境を育む力
		世界で活躍する力
DP2 知識を活用できる 「技能」	英語などについての日常的な語学運用能力、情報リテラシーなど知的スキルを身につけている。	知的スキルを活用する力
DP3 次代を切り拓く 「思考・判断・表現力」	課題を発見し問題解決に至る論理的な思考・判断・表現力を身につけている。	適切に判断する力
DP4 組織や社会の 活動を促進する 「コミュニケーション力」	多様な他者と協働し組織や社会の活動を促進していくことができる。	相互に理解しあう力
DP5 社会で生きる 「自律的行動力」	キャリア意識を持ち、学び続ける意欲と公共性・倫理観のもとで行動できる自律性を持っている。	自己を確立する力